

考える。したがって、許容水質をこえるものについては、水質に応じた付加料金を徴収する方法を考慮しなければならない。現在建設中の北部下水処理場の運転開始を控えて、早急に対処しなければならない問題である。

4 ————— おわりに

以上、下水道が現在かかえている主要な問題点とその解決方法について私見をのべてきたが、要するに事業を円滑に遂行するのは人であって、質および量の充実と合理的な配置が絶対に必要である。今後は勇断をもった対策以外に問題が解決しないことを最後にのべて結びとする。

<土木局下水道部長>

《コメント》

計画の統一と施設の共同化

緒形昭義

現在下水道は、主として下水道部局だけで考えられ、建設され、維持管理されているが、視野をかえて、他施設との関連において、都市のなかにおけるあり方について、もっと原理的などころからみなおし、考えなおしてみる必要がある。

たとえば下水道施設は、浸水対策、水質汚濁対策、水洗化などを目的としており、これは他の部局、防災、清掃、保健、衛生などと関係があることからみても、総合的見地から考えてみなければならない。

そもそも下水道は、その一端が宅地あるいは建築物の排水施設に結ばれ、他端が下水処理場に接続されて、はじめてその効用を生ずるものである。しかも部分的につくっても意味がなく、全体として完成しないとその機能をはたさない。こういった施設は他にもあって、道路網、上水道、電気、ガス、電話など同様である。幹線道路に接続しない道路、本管につながっていない水道、ガス、本線と接続していない電気、電話は全然その機能をはたさない。さらに、これらの施設は宅地あるいは建築物と接続することによってはじめてその効用を生ずる。

これらの施設は、現在では、道路を中心としてその骨組が形づくられている。その第1の理由は、これらの施設は宅地あるいは建築物に接続してはじめて効用を生ずるからであり、第2にはこれらの施設の維持管理が道路を中心として行なわれるからであり、第3には建設面において道路上に、あるいは下に、あるいはそって建設した方が有利な場合が多いからである。これら都市の脈絡施設は

そのあり方に、明らかに共通性を有している。この共通性のゆえに、これら施設の計画と建設は全体計画と統一計画のもとに行なわれてよいし、また行なわれるべきである。とくに他の部局、他の行政機関、あるいは他の団体〈公社、会社など〉との統一計画が必要である。

従来そういった統一計画がなおざりにされていたために、道路をつくってから何年もしてやっと舗装をし、上水道を敷くといつてはそれを再びこわし、ガスを敷くといつてはほじくりかえし、下水をつくるといつてはまたやりなおしたりしてきた。一方、農地、山林が宅地化されるなど土地利用の変化があると、当然既存の施設の容量が足りなくなって取換えたりしなければならなくなってくる。しかし、これらのことは、統一計画があれば相当でいどしないですむことであり、統一計画の必要性と必然性のあかしでもある。一方それぞれの施設について全体計画があり、他施設の計画の統一がなされていけば、当然施設の共同化ということが考えられるようになる。

計画の統一化と施設の共同化には利点が多い。まず、道路をたびたび掘りかえしたり、すぐに容量が足りなくなって取換えたりすることがなくなるか、あるいは少なくなる。施設を共同化するのであるから、各施設建設費を合算したもので共同施設を建設できる。もしもそれが人がはいるていどの共同溝といったものでもできるならば、維持、補修、取換えなどは非常に容易になる。そしてそういったものは耐用年数の長いものとなって結果的には非常に経済的なものになるであろう。

計画の統一と同じく、施設の共同化は一局内だけでなく、他の局、他の機関、他の団体〈公社、会社など〉の施設との共同化を考えなければならない。実際には、現在のところ、運営主体が異なると計画の統一、施設の共同化は予想外にむずかしい。しかし、この異なった運営主体間の計画の統

一、施設の共同化をはかることこそ、本来的な意味での都市計画的作業なのであって、経済性を総合的見地から発揮できることにもなるのである。計画の統一と施設の共同化がはかれる場合には施設は当然幹線をなすものと、それに接続して枝線を形成するものと、それにとりつく部分に分けて考えなければならない。そしてその区分に応じて、将来の土地利用の変化に対して要求される対応性とか、重要度が異なるのも当然である。幹線の性格が強いものほど、広範な区域を受けもち、重要度を増し、耐用年数はより長く要求され、土地利用の変化に対する対応性も要求される。したがって幹線の性格が強いものほど共同化の必要性と可能性が増すといえる。

計画の統一と施設の共同化がはかれれば、枝線についてもかなりの共同化ができる。たとえば神奈川県住宅供給公社建設の汐見台団地では、道路のわきに、道路に沿って共同施設帯なるものをもうけ、このなかに上水道、電気、ガス、電話線〈この場合下水道は道路中央にあって共同施設帯と別であるが〉を敷設している。他施設についても同様にいえることであるが、下水道は、もっと総合的見地から全体計画がたてられ、他施設との計画の統一と共同化が考えられるべきであろう。下水道計画はその主導権を十分に発揮できる必然性をもっている。

<横浜国立大学講師>